

ナイトセッション

「PCSJ/IMPS の過去の振り返りと未来へのメッセージ： エキサイティングな未来の研究交流の場を創るために私たちにできること」

モデレーター： 齊藤 隆弘（神奈川大学）

パネリスト： 谷本 正幸（名古屋産業科学研究所）、小野 文孝（東京工芸大）

羽鳥 好律（神奈川工科大学・東京工業大学）

趣旨と進め方：

現代は、絶え間ない技術革新と、それに伴う急速な社会変容により、予測困難な時代だと言われています。このような激動の時代、私たちには何ができるのでしょうか。それは、過去に学び、未来を創ることに絶えず取り組むことではないでしょうか。

私たちは、今から 30 年前に PCSJ をスタートさせ、その後の 10 年間の歩みを振り返り、20 年前に未来の研究交流の場として IMPS を新たにスタートさせました。三名のパネリスト、そしてモデレーターは、30 年前当時、それぞれ大学の研究者、通信事業会社の研究者、メーカーの研究者として、PCSJ の創設と運営に主導的な役割を果たし、また 20 年前の IMPS の創設と運営に力を尽くしてきました。

私たちパネリスト、モデレーターは、ライフサイクルの晩秋に相当する年代で、残念ながら未来を創る仕事は重すぎ、担うことはできないでしょう。若手の研究者、そして中堅の研究者の方々に、未来を創る仕事を託します。その前に、過去 30 年間、PCSJ と IMPS の創設と運営に力を尽くしてきた私たちオールドタイマーの想いを受けとめていただきたいと思います。

このナイトセッションでは、まず、モデレーターが PCSJ と IMPS の歴史を振り返り、続いて三名のパネリストの方々から、『PCSJ・IMPS の創設時や運営に当たったのエピソード』、『PCSJ・IMPS の他の学会とは異なるオリジナリティとは何か』、『PCSJ・IMPS のミッションとは何か』、『PCSJ・IMPS の不易なエッセンスとは何か』、『PCSJ・IMPS の未来の担い手に伝えておきたいこと』について、それぞれの想いを語っていただきます。その後、『PCSJ・IMPS の未来を創るために私たちにできること』をテーマとして、全員が参加するグループワークの形式でワークショップを行います。グループワークでは、参加者全員が複数のグループに分かれて、『私たちにできること』のアイデアを出し合い、共有していただき、その後グループワークの様子を各グループからショートプレゼンしていただきます。

グループワークは、何らかの結論を得ることを目的としたものではなく、多彩なアイデアを共有することを、その狙いとしています。ですから、グループワークでは、参加者のアイデアを否定することなく、アイデアを互いに共有し、アイデアを深めるよう協調的に議論してください。

さいとう たかひろ
齊藤 隆弘

〔学歴〕

1976年 東京大学工学部電気工学科卒業、
1981年 東京大学大学院工学研究科電気工学専攻博士課程修了、工学博士。

〔職歴〕

1981年 神奈川大学工学部電気工学科専任講師、
1991年 神奈川大学工学部電気工学科教授、現在に至る。
2013年 神奈川大学副学長（FD・学生支援・大学院・学術研究担当）、現在に至る。

〔研究分野〕

画像符号化、画像復元、画像入力、視覚情報処理など

〔PCSJ・IMPS との関わり〕

30年前（1986年）のPCSJ創設時に、実行委員会の初代幹事（1986年3月～1993年1月）を務めました。その後、実行委員会委員長（2000年5月～2003年4月）、運営委員会委員長（2006年5月～2009年4月）を務めました。20年前（1996年）のIMPSの創設にも、運営委員、電子情報通信学会画像工学研究専門委員会副委員長（1995年5月～1997年4月）として関わり、また運営委員長時代には、電子情報通信学会和文論文誌(D)のPCSJ・IMPS レター特集の企画を提案し、2007年に実施し、以降毎年継続して行われています。



たにもと まさゆき
谷本 正幸

〔学歴〕

1970年 東京大学工学部電気工学科卒業
1976年 東京大学大学院工学研究科電子工学専門課程博士課程修了、工学博士

〔職歴〕

1976年 名古屋大学工学部電気工学科助手
1991年 名古屋大学工学部教授
1997年 名古屋大学大学院工学研究科教授
2012年 名古屋大学名誉教授
2012年 名古屋産業科学研究所研究部上席研究員、現在に至る

〔研究分野〕

通信方式、画像情報圧縮、画像処理など

〔PCSJ・IMPS との関わり〕

PCSの国内版として発足したPCSJには、準備段階の1985年から運営委員として参加しました。1990年から1993年までは実行委員長を務めました。2002-2005年には、運営委員長としてPCSJ/IMPSを浜名湖ロイヤルホテルで開催しました。PCSには、1977年と1986年の東京会合には参加しましたが、外国開催のPCSは1981年のカナダ・モントリオール会合が初参加でした。1997年からはPCS国際運営委員会委員を務めています。日本でのPCS開催は1991年の東京会合以降しばらく途絶えていましたが、2010年にGeneral ChairとしてPCS名古屋会合を主催しました。



おの ふみたか
小野 文孝

〔学歴〕

1971年 東京大学工学部 電子工学科 卒業
1973年 同 大学院 工学系研究科 電子工学専攻 修士課程
修了
1993年 博士（工学）（東京大学）

〔職歴〕

1973年 三菱電機（株）入社
1982-83年 イリノイ大学客員研究員
2000年 東京工芸大学工学部 教授
2014年 東京工芸大学 名誉教授, 2015年 同 理事（現在に至る）
2014年 東京大学 客員研究員
2015年 東京都市大学 客員教授

〔研究分野〕

画像符号化・画像処理・エントロピー符号化の研究開発ならびに標準化に従事

〔PCSJ・IMPS との関わり〕

PCSJ ではこれまで下記の行事に参加させていただきましたがモデレーター、他のパネリストの皆様のように創設時からのお手伝いはできておりません。今回事務局のご指名でパネリストに名を連ねさせていただくことになり汗顔の至りですが、なんとかお役に立てればと考えています。

1990年 PCSJ90 画像符号化講演会 講師
2000年 PCSJ2000 ナイトセッションパネリスト



ほとり よしのり
羽鳥 好律

〔学歴〕

1971年 東京大学 工学部 電気工学科 卒業
1988年 工学博士（東京大学）

〔職歴〕

1971年 国際電信電話株式会社 入社
2003年 東京工業大学大学院 総合理工学研究科 教授（2013年
定年退職）
2014年 神奈川工科大学 客員教授
東京工業大学イノベーション人材養成機構 特命教授
（現在に至る）

〔研究分野／興味を持っている分野〕

画像符号化、映像信号処理など。／博士課程学生のキャリアデザイン教育。

〔PCSJ・IMPS との関わり〕

1986年のPCSJ創設のために、準備委員会的な仕事を当時NTTにおられた橋本秀雄様（後に金沢大学）と水面下も含め色々作業をしました。その後、ずっとこの学会にお世話になりつづけ、定年退職記念？でPCSJ2013で「鳥の目を見た Picture Coding ー標準化視点と画像符号化研究ー」と題して講演もさせていただきましたから、実質、人生の半分近くのお付き合いと成ります。

